

第29回全日本高等学校女子サッカー選手権大会
兼 高知県高等学校サッカー秋季大会（女子）
兼 令和2年度（第73回）高知県高等学校体育大会
高知県予選

期日：令和2年9月20日（日）～22日（火）

会場：高知県立青少年センター・春野総合運動公園多目的G

実施要項

1. 主旨：（公財）日本サッカー協会は日本国内における女子サッカーの技術向上と健全な心身の育成を図り、広く女子サッカーの普及振興に寄与することを目的とし、高等学校のチームすべてが参加出来る大会として実施する。この大会はその予選である。
2. 主催：高知県教育委員会 高知県高等学校体育連盟 （一社）高知県サッカー協会女子委員会
3. 期日：令和2年9月20日（日）～22日（火祝）
4. 会場：高知県立青少年センター・春野総合運動公園多目的G
5. 参加資格
 - (1)（公財）日本サッカー協会に「女子」の種別で登録した加盟登録チームであり、かつ都道府県高等学校体育連盟に加盟した高等学校の単独チームであること。尚、本大会におけるチーム名は学校名とする。※チーム編成において、全日制課程・通信制課程・定時制課程の生徒による混合は認めない
 - (2) 大会参加申込締切日までに登録（追加登録も含む）された高等学校の生徒の女子選手であること。
 - (3) 外国人留学生の登録は4名までとし、試合出場は2名までとする。
 - (4) 移籍選手：本大会の予選を通して、選手は他のチームで参加（参加申込）していないこと。
 - (5) 統合の対象となる学校については、当該校を含む合同チームによる混成は認める。
 - (6) ア) 転校後6カ月未満の者の参加は認めない。（外国人留学生もこれに準じる）ただし、一家転住等やむを得ない場合は、当該都県体育連盟会長の許可があればこの限りではない。
イ) 転校を伴わなくても、高体連加盟以外のチームから高体連加盟のチームへ移籍する場合は上記アに準ずるものとする。ただし、この規程イの適用は当該年度内に限るものとする。
6. 大会形式：リーグ戦方式
順位決定方法：勝ち3点、引き分け1点、負け0点とし、勝ち点の多い順に決定する。
但し、勝ち点と同じ場合は以下の項目の順位で決定する。
 - ①得失点差：ゴールディファレンス（総得点－総失点）
 - ②総得点数
 - ③当該チーム同士の対戦成績
 - ④前記項目が同一の場合は、抽選（当該チーム代表の立会い）により決定する。
7. 競技規則
大会実施年度の本協会「サッカー競技規則」による。

8. 競技会規定

以下の項目については本大会規定を定める。

(1) フィールド表面は、平坦で常緑な天然芝であり、ピッチサイズは原則105m×68mであること。

(2) 競技者の数

- ① 競技者の数：11名
- ② 交代要員の数：7名以内
- ③ 交代を行うことができる数：5名以内
- ④ ピッチ上でプレーできる外国籍選手の数：2名以内

(3) 役員の数

テクニカルエリアに入ることができる役員の数：6名以内

(4) テクニカルエリア：設置する

(5) 競技者の用具

① ユニフォーム

- a. 本協会のユニフォーム規程に基づいたユニフォームを使用しなければならない。
- b. ユニフォーム（シャツ・ショーツ・ソックス）については、正の他に副として、正と色彩が異なり判別しやすいユニフォームを参加申込書に記載し、各試合に必ず携行すること（FP・GK用共）。本協会に登録されたものを原則とする。
- c. シャツの前面・背面に参加申込の際に登録した選手番号をつけること。ショーツの選手番号についてはつけることが望ましい。
- d. ユニフォームの色、選手番号の参加申込締切日以降の変更は認めない。
- e. ユニフォームへの広告表示については認めない。

(6) 試合時間

① 試合時間：80分（前・後半40分）

ハーフタイムのインターバル：原則として10分（前半終了から後半開始まで）

② アディショナルタイムの表示：行う

(7) マッチコーディネーションミーティング：各試合競技開始時間の70分前に実施する

(8) その他

① 第4の審判員の任命：行う

9. 懲罰

(1) 本大会の予選は懲罰規定上の同一競技会のみなし、予選終了時点で未消化の出場停止処分は四国大会・全国大会において順次消化する。ただし、警告の累積による場合を除く。

(2) 本大会は、本協会「懲罰規程」に則り、大会規律委員会を設ける。

(3) 大会規律委員会の委員長は女子委員長とし、委員については委員長が決定する。

(4) 本大会期間中に警告を2回受けた選手は、次の1試合に出場できない。

(5) 本大会において退場を命じられた選手は、自動的に次の1試合に出場できず、それ以降の処置については大会規律委員会において決定する。

(6) 本実施要項に記載事項にない懲罰に関する事項は、大会規律委員会にて決定する。

10. 参加申込

(1) 1チームあたり30名を最大とする。参加申込した最大30名の選手の中から、各試合メンバー用紙提出時に選手最大18名を選出する。(ポジションについては、GK, DF, MF, FWと記入すること。)

(2) 参加申込は所定の申込書1部とプライバシーポリシー同意書1部を、期日までに下記申込場所宛に送付すること。

(3) 申込締切日：令和2年9月11日(金) 17:00必着

(4) 申込先：〒780-0053

高知市駅前町2-1 高砂ビル301号

(一社) 高知県サッカー協会「全日本高等学校女子サッカー選手権大会」係

(5) 連絡先：(一社) 高知県サッカー協会 女子委員長

山崎 美奈実 連絡先：080-5669-2817

11. 参加料：15,000円

大会当日、マッチコーディネーションミーティングに持参すること。

12. 選手証

本協会登録および本大会に参加申込を完了した選手のみが試合に出場する権利を有する。各チームの登録選手は、原則として本協会発行の選手証を持参しなければならない。ただし写真貼付により、顔の認識ができるものであること。

※選手証とは、本協会WEB登録システム「KICK OFF」から出力した選手証・登録選手一覧を印刷したもの、またスマートフォンやPC等の画面に表示したものを示す。但し、セキュリティ等の都合上プリントアウトしたものが望ましい。

13. 選手変更届及びメンバー提出用紙

(1) 参加選手の変更は認めない。

(2) メンバー提出用紙は、マッチコーディネーションミーティングに持参、提出する。

14. 閉会式：行わない。

15. 表彰：優勝 表彰状

16. その他

(1) 本大会は、高体連サッカー専門部による「新型コロナウイルス感染症対応ガイドライン」(別紙)に則り、大会運営を協力しながら実施する。

(2) 本大会は原則無観客試合とする。

(3) 参加チームは必ず各チームで傷害保険に加入しておくこと。(試合中及び大会に関する負傷あるいは事故の処置は各チームで責任を持つものとする。)主催者側は原則として応急処置のみを行

うものとする。

(4) マッチコーディネーションミーティングに於いて両チームのユニフォームの決定、諸注意事項の説明等を行う。このとき、必ずユニフォームを正・副持参すること。

(5) 本大会において、その他の検討事項ができたときは、女子委員長および女子委員会において協議の上決定する。

(6) 本大会の上位2チームに四国大会の出場権を与える。

(7) 試合のないチームは副審1名、第4審1名と、記録等運営に協力すること。

(8) 設営は試合のないチームが行い、片付けは各チームが協力して行うこと。

高知県高体連サッカー専門部主催大会 新型コロナウイルス感染症対応ガイドライン

はじめに

6月に新型コロナウイルスによる自粛から再開に向けてのガイドラインがJFAや高体連より示された。高知県高体連サッカー専門部(県サッカー協会二種委員会)としては、県リーグ、選手権大会(県体代替大会)、冬季大会(新人戦)の実施を控え、以下のようなガイドラインを示す。

1、 本ガイドラインの目的

- 感染を最大限に防ぎながら、高円宮杯U18高知県サッカーリーグ及び高体連サッカー専門部主催大会(高校サッカー選手権大会、冬季大会、等)を再開する
- その際、感染リスクを下げるために関係者が順守すべき基準を示す
- 感染が生じてしまった場合の適切な処置について示す

2、 本ガイドラインの範囲

- ステップ②：無観客での試合開始
- ステップ③④：制限付きの試合開催
 - (1) 超厳戒態勢時(強い制限)政府方針に則り7/10~(予定)
 - (2) 厳戒態勢時(緩和された制限)政府方針に則り8/1~(8月末まで延長)

イベント開催制限の段階的緩和の目安(高知県)

| 時期 | コンサート等 | プロスポーツ等 |
|-----------------------------|--|--|
| ステップ② 6月19日~ | 【1000人又は50%】 *密閉での大声・十分な間隔 慎重な検討 | 【無観客】 *感染対策徹底 |
| ステップ③ 7月10日~ | 【5000人又は50%】 *密閉での大声・厳格なガイドライン | 【5000人又は50%】 *感染対策徹底 試合での選手・観客等の行動管理 |
| ステップ④ 8月1日~ (8月末まで延長) | 【50%】 *密閉での大声・厳格なガイドライン | 【50%】 *感染対策徹底 試合である選手・観客等の行動管理 |

目的：安全優先

生命・健康の安全を最優先とし、感染拡大のリスクを最大限に排除した、選手・チーム、指導者、審判、運営スタッフ、それらのご家族等、サッカーファミリー全体が安全に活動できる環境を提供する

(JFAガイドラインより)

- (1) できるだけ来場者の人数を少なくすることで、感染リスクを抑える
- (2) ゾーン分をしておくことで、感染者が出た場合の影響範囲を限定する
- (3) 特に選手、チームスタッフと接触する人数を最小化する

*** 高体連サッカー専門部としては、現状を「ステップ②」（原則無観客）の状況であるとする。**

（令和2年8月2日現在）

ステップ②（無観客試合）で来場をご遠慮いただく方

- （1）選手、関係者の家族（保護者）
- （2）ファン・サポーター
- （3）来賓
- （4）その他

*（1）に関しては、各チームに高体連専門部長からの文書を通達する。（2）～（4）に関しては県サッカー協会 HP に掲載する。

3、県リーグ戦開催中に感染者又は濃厚接触者が出た場合の措置

県教育委員会及び保健所等の指導のもとに以下の対応を決定する。

- ① 出場チーム指導者・選手が感染者となった場合
 - ・基本的に濃厚接触者になるので、当該チームのリーグ戦参加を自粛する。（期間未定）
 - ・合同チームにおいても同様の措置とする。
 - ・複数チームにわたって感染者が出た場合は、リーグ戦の中断を検討する。（期間未定）
- ② 出場チームの指導者・選手が濃厚接触者となった場合
 - ・その指導者・選手は自宅待機とし、それ以外の指導者・選手でリーグ戦参加を可能とする。
 - ・ただし、指導者が不在になった場合は、当該チームのリーグ戦参加を自粛する。（復帰までの期間）
- ③ サッカー部関係を除く加盟校教員、生徒が感染者となった場合
 - ・当該校における対応（*対象クラス閉鎖、学年閉鎖、休校措置など）によって、リーグ戦への参加継続を判断する。
- ④ チーム関係者以外の審判員もしくは役員等が、感染者又は濃厚接触者となった場合
 - ・対象となる審判員もしくは役員等を除いてリーグ戦を継続する。

4、選手権大会及び冬季大会開催中に感染者又は濃厚接触者が出た場合

県教育委員会及び保健所等の指導のもとに以下の対応を決定する。

- ① 出場チーム指導者・選手が感染者となった場合
 - ・基本的に濃厚接触者になるので、当該チームの大会参加を自粛する。
 - ・合同チームにおいても同様の措置とする。（冬季大会）
 - ・すでに敗退しているチームが休校となった場合は、原則そのまま大会を継続する。
 - ・勝ち残った学校から感染者が出た場合は、不戦敗で大会を継続するか、もしくは大会の中止を検討する。
- ② 出場チームの指導者・選手が濃厚接触者となった場合
 - ・その指導者・選手は自宅待機とし、それ以外の指導者・選手で大会参加を可能とする。
- ③ サッカー部関係を除く加盟校教員、生徒が感染者となった場合
 - ・当該校における対応（*対象クラス閉鎖、学年閉鎖、休校措置など）によって、大会への参加継続を

判断する。

- ④ チーム関係者以外の審判員もしくは役員等が、感染者又は濃厚接触者となった場合
・対象となる審判員もしくは役員等を除いて大会を継続する。

5、県リーグ

- ① 二種委員会に関する感染対策責任者は、二種委員長（不在の場合は副委員長）とする。
- ② 各リーグ、各チームにおいても感染対策責任者を置く。また、各リーグにおいては各節の各会場毎に感染対策責任者を置く。
- ③ 令和2年度に限り、全カテゴリーの昇降格をなしとする。（プリンスリーグに準ずる。）しかし、各リーグともゲームの質が落ちないように工夫して行う。
- ④ 学校長や保護者の判断で、令和2年度県リーグに不参加となった場合、懲罰を科すことはしない。
一部・二部リーグで不参加チームが出た場合は、不足したチーム数でリーグ戦を行い、令和3年度は、同リーグでの復帰を認める。
- ⑤ 上位リーグで、統廃合などの理由で来年度以降チームの存続ができない場合、
*昇降格がないために令和3年度は、リーグによっては、チーム数が不足した状態で開始することもある。
- ⑥ 順位決定方法は、①勝ち点（勝ち3、負け0、引き分け1）、②得失点差、③総得点、④同位チームによる対戦成績とする。リーグが中断もしくはチームが不参加のため実施試合数が異なる場合があっても、最終節（最大12月13日（日））をもって、順位決定とする。
- ⑦ 一部リーグ二部リーグに関しては、原則各会場二試合をめどに日程を組む。その場合、一部二部それぞれにチームを所属している場合は、一会場にまとめて行うことができる。
- ⑧ 一試合目開始から二試合目開始までの間を原則最低三時間空けること。
会場責任者が事前に各チームが接触しないよう、集合時間、集合場所、控え場所、動線を指示すること。
（やむを得なく三試合開催になった場合も同様である）
- ⑨ 参加者は、各チーム監督及びスタッフ（マネージャーを含む5名以内）、エントリーメンバー（25名以内）、審判員（ユース審判を含む3名以内）とする。
- ⑩ 交代枠9人まで。ただし、後半の交代回数は3回まで（GKは除く）とする。（プリンスリーグに準ずる）
*一度に交代できる人数3人まで。（提案）
- ⑪ ユニフォームチェックは、試合3日前までに、対戦表の左側のチームが責任者となり対戦相手と決定したのち、主審と確認を行う。（電話またはオンライン等で。念のため両チームは正・副、両方のユニフォームを持参すること）
- ⑫ 暑い時期においては、暑熱対策を怠ることのないよう各チームは準備をすること。特に飲水タイムやクーリングブレイク時の三密を避け、ボトル等の共用やつば吐き・うがいなどをしないよう注意する。そのために会場責任者だけでなく各チームはテントやアイシングの準備をする。
- ⑬ 原則、県リーグ全試合は無観客試合とする。各会場責任者は、立ち入り禁止場所を明示する。
- ⑭ 一部二部ともに簡易記録用紙を使用する。（できるだけ本部の人数を減らす）

6、選手権大会（冬季大会）

- ① 感染対策責任者は、高体連専門委員長（不在の場合は副委員長）とする。
- ② 各会場、各チームにおいても感染対策責任者を置く。
- ③ 原則一会場に最大二試合の実施とする。やむを得ず三試合になる場合は試合時間間隔、他チームとの動線が

等しくならないように感染対策責任者が指示をする。

- ④ 一回戦から準々決勝戦まで無観客試合（5県リーグ⑨を採用する）とする。（冬季大会は全試合）
- ⑤ 準決勝戦、決勝戦は、高体連のガイドラインを遵守できる場合、部員と保護者のみ観客として迎える。春野陸上競技場での入り口を一か所に限定し、メインスタンドに密にならないよう配席する。
- ⑥ 令和2年度は決勝戦のチケット販売を行わない。
- ⑦ 大会規定は従来通り。
- ⑧ マッチミーティングは、十分な距離を保った状態で行う。ユニフォームの色は事前に決定しておくことが好ましい。（必ず両色を用意する）

7、各会場対応

①観客・スカウティング

- 1) 県リーグ・冬季大会・選手権三回戦まで原則無観客試合。

各チーム・保護者あてに「無観客試合へのご理解」を送り、各会場のガイドラインを参照していただきご理解を賜る。各会場責任者は、試合・運営に影響がない事を確認する。目に余る場合は、各チームの感染対策責任者が責任をもって、移動をお願いする。

- 2) 選手権準決勝戦、決勝戦に関しては、高体連ガイドラインを遵守できるチームの部員と保護者（登録メンバー25名とその各家庭2名まで）の入場を許可する。

春野陸上競技場のガイドラインに則って運営を行う。

*選手・スタッフは入場時に本部にて検温を行う。

*アップに関しては、エントリーメンバー（20名）＋スタッフ以外は入らない

- 3) 自チームのスカウティング（ビデオ撮影）は、各会場責任者が許可した場合のみ、エントリーメンバー内で、ベンチより離れた場所（各会場で設定）で行うことができる。他チームのスカウティングに関して、令和2年度は許可しない。（フェンス外は関知しない）。ただし、準決勝戦においては、ソーシャルディスタンスを保つことで許可することができる。

② 春野陸上競技場（選手権準決勝戦・決勝戦）

メインスタンドのみ。（バックスタンドは使用しない）入り口はメイン入り口1か所で行う。検温係2名、保護者観客対応係2名を置く

（様式④書類とIDを交換。終了時に回収）。

メインスタンドに2名配置。観客席を1席空ける。張り紙で表示する。

*選手・スタッフは入場時に本部にて検温を行う。

*アップに関しては、エントリーメンバー（20名）＋スタッフ以外は入らない

③ 春野球技場（プリンスリーグのみ。県リーグは現在のところ使用予定なし）

原則無観客。メインスタンド、バックスタンドともに入場はお断りする。（フェンス外は関知しない）

*選手・スタッフは入場時に本部にて検温を行う。

*アップに関しては、エントリーメンバー（20名）＋スタッフ以外は入らない

④ 春野陸上補助競技場（選手権予備日11月1日、県リーグは現在のところ使用予定なし）

原則無観客。トラック内への侵入、特に本部席側への侵入はお断りする。（トラック以外は関知しない）

*選手・スタッフは入場時に本部にて検温を行う。

*アップに関しては、エントリーメンバー（20名）＋スタッフ以外は入らない

⑤ 春野多目的（県リーグ、冬季大会）

原則無観客。駐車場内での乗り降り後、移動してもらう。坂道より上の私道には関知しない。（クロスカントリーコースは立ち入り禁止）

*選手・スタッフは入場時に本部にて検温を行う。

*アップに関しては、エントリーメンバー（20名）＋スタッフ以外は入らない

⑥ 野市ふれあい広場（選手権2回戦）

原則無観客。フェンス内への侵入をお断りする。フェンス外は関知しない。

*選手・スタッフは入場時に本部にて検温を行う。

*アップに関しては、エントリーメンバー（20名）＋スタッフ以外は入らない

⑦ 県青少年センター（野市）（選手権準々決勝）

原則無観客。トラック内への侵入、特に本部席側への侵入をお断りする。

*10月31日（土）は少年少女バレー大会のため駐車場が使用できません。

*選手・スタッフは入場時に本部にて検温を行う。

*アップに関しては、エントリーメンバー（20名）＋スタッフ以外は入らない

⑧ スポーツパークさかわ（準々決勝予備・県リーグ）

原則無観客。メインスタンド、バックスタンドともに入場はお断りする。

*選手・スタッフは入場時本部にて検温を行う。

*アップに関しては、エントリーメンバー（20名）＋スタッフ以外は入らない

⑨ 日高運動公園（準々決勝・県リーグ）

原則無観客。フェンス内への侵入をお断りする。フェンス外は関知しない。

*選手・スタッフは入場時に本部にて検温を行う。

*アップに関しては、エントリーメンバー（20名）＋スタッフ以外は入らない

⑩ 西南大規模公園（陸上競技場、球技場、人工芝AB）（選手権一回戦・県リーグ）

原則無観客。フェンス内への侵入をお断りする。フェンス外は関知しない。

*選手・スタッフは入場時に本部にて検温を行う。

*アップに関しては、エントリーメンバー（20名）＋スタッフ以外は入らない

⑪ 三原村ふれあい広場グラウンド

原則無観客。ピッチ内への侵入をお断りする。

*選手・スタッフは入場時に本部にて検温を行う。

*アップに関しては、エントリーメンバー（20名）＋スタッフ以外は入らない

⑫ 各学校施設

各学校長の使用許可を受ける。（各リーグ競技委員長→会場校顧問→各学校長）

原則無観客。参加者全員の校舎内への立ち入り禁止。チーム駐車場、集合場所、着替え場所、荷物置場、アップ場、トイレ、水道、等、必要個所の明示を会場責任者が事前に連絡する。

手洗い石鹸、消毒液、必要掲示物は各会場責任者及び感染対策責任者が用意する。

*選手・スタッフは入場時に本部にて検温を行う。

*アップに関しては、エントリーメンバー（20名）＋スタッフ以外は入らない

8、大会（県リーグ・選手権・冬季）に係る事前及び当日の健康確認について

（高体連ガイドラインに基づく）

参加校（顧問・生徒）

- ① 参加者の大会前2週間の健康チェック【様式1】（検温・発熱・咳・咽頭痛・臭覚味覚異常…等）
- ② 参加者の健康状況等確認について【様式2】の作成
当日会場に入る部員について、記載されている健康状態及び感染機会について確認を行い大会前日に学校長印を押印し準備。
- ③ 【新型コロナウイルス感染症対策ガイドライン】について確認し、参加者全員に周知徹底を行う。
- ④ 大会日毎に全生徒の健康確認（検温等）を実施。
→大会日毎に実施し持参した【様式1】に記録。
→体調不良者については参加させない。
- ⑤ 大会（試合）開始前までに【様式2】を本部（専門部）へ提出。
- ⑥ 【様式1】については各チームで2か月間保管する。
- ⑦ 大会終了後に新型コロナウイルス感染者が発生した場合は、発症から現時点までの経緯詳細を書面にて作成、【様式1】を添えて専門部へ提出。

9、保護者観戦を実施する場合について（高体連ガイドラインに基づく）

- ① 顧問は事前に二種感染対策責任者へ【観戦希望申請書】と【観戦希望者名簿】を提出する。感染対策責任者は、全体の観戦希望者名簿を作成する。
- ② 保護者は観戦を希望する場合は、顧問へ申し出て事前に【様式4】を受け取る。*大会日毎に1人1枚必要。
- ③ 保護者は【様式4】の下記事項を確認し、大会前日に【様式4】へ必要事項を記入。*押印を忘れずに。
- ④ 保護者は【様式4】を持参し、会場で入口にて係員に提出し、観戦希望者名簿から確認する。
- ⑤ 会場入り口にて検温を実施し、発熱がない事を確認の後、IDカードを受け取る。IDカードについては当日の観戦が終えるまで着用すること。
- ⑥ 一時退場する場合はIDカードを付けたまま会場外へ出て再入場の際はIDカードを提示して入場する。
- ⑦ 当日の観戦を終えたら、会場で入口へIDカードを返却する。
- ⑧ 保護者は大会終了後に新型コロナウイルスに感染した場合は発症から現時点までの経緯について顧問へ連絡。
各校の観戦者について問題が発生した場合には、各校の感染対策責任者が責任を持って対応する。

10、会場運営

●来場者（運営委員）に求められること

- ① 無理な来場は、勇気をもって、見合わせる
 - ・体調がよくない場合（例：発熱、咳、喉の痛み、だるさ、味覚臭覚の異常などの症状がある場合）
 - ・同居家族や身近な知人に感染が疑われる方がいる場合
 - ・過去14日以内に政府から入国制限、入国後の観察期間を必要とされている国、地域等への渡航又は当該在住者との濃厚接触がある場合
- ② 握手、抱擁などは行わない
- ③ 社会的距離（出来るだけ2m、最低1m）を確保する
- ④ マスクを着用する（プレー中の選手等を除く）
- ⑤ 手洗い、手指消毒をこまめに行う

●競技場の衛生管理

- ① 使用するすべての部屋に消毒液を設置する
- ② トイレには、手を拭くためのペーパータオル（使い捨て）を用意する。また手洗い場には、石鹸（ポンプ型が好ましい）を用意する
- ③ チーム到着前に、チームが使用を予定する場所全てを消毒する。更衣室は、試合開始後など、人がいない時にもう一度消毒する
- ④ ドアはできるだけ開けたままとする。ドアノブに触れる頻度を下げするため

●競技場への入退場の管理

- ① 競技場のすべての入り口で入退場のチェックを行う
 - ・入口の数は適正に設置。欧州では、選手以外は1か所に限定し、管理を徹底している。
- ② 入場前に体温を測定し、37.5度以上の場合、入場をお断りする
 - ・体温測定済みの方を識別する方法を工夫する。または再入場の際も体温を測定する
- ③ 来場者名簿を利用して、来場時刻、退場時刻を管理する
- ④ 全ての入り口に手指消毒液を設置する

●メディア対応

- ① 取材活動できる人数制限を設け、取材許可制を敷く。許可が下りたメディアのみスタジアム内での取材を可とする。
- ② 受付時に検温を実施し、体温が37.5度以上の場合スタジアムでの取材活動をお断りする
- ③ 全てのメディアは試合終了後1時間以内にスタジアムを退出する

●チーム、審判員、および競技

1) 競技場への到着

- ① キックオフ時刻の70分前までに競技場に到着する
- ② 遠方会場にはできるだけ個別に到着する。やむを得ない場合はバスを利用することができる
- ③ バス利用に際して、以下の点に留意する
 - ・マスクを利用する
 - ・移動が長時間（2時間以上等）にわたる場合、複数台に分乗して選手間の距離を1.5~2m開けること

を検討する

・車内の換気に留意する。1時間に3回の換気が推奨される

④ 審判員は各自到着し、試合終了後、各自退出する

2) 試合当日の体温測定

① 毎日の提示の体温測定は、変わらず実施する

② 競技場入場口にて、チーム全員の体温を測定する。審判員についても同様とする

③ 37.5度以上の者がいた場合、次のように処置する

・保護者に連絡し、速やかに帰宅準備を進める

・チームの責任者に連絡する。チーム責任者は会場責任者及び専門委員長に報告する

・新型コロナウイルス感染症の疑い症状がある場合、医療機関に相談のうえ、診療・検査等の適切な処置を行う

・疑い症状がない場合、適切に経過観察する

●チーム及び審判員全員に求められること

① 無理な来場は、勇気をもって、見合わせる

・体調がよくない場合（例：発熱、咳、喉の痛み、だるさ、味覚臭覚の異常などの症状がある場合）

・同居家族や身近な知人に感染が疑われる方がいる場合

・過去14日以内に政府から入国制限、入国後の観察期間を必要とされている国、地域等への渡航又は当該在住者との濃厚接触がある場合

② 握手、抱擁などは行わない

③ 社会的距離（出来るだけ2m、最低1m）を確保する

④ マスクを着用する（アップ中またはプレー中の選手等を除く）

⑤ 手洗い、手指消毒をこまめに行う

⑥ グランドでの唾・痰吐き、うがい等

・唾・痰吐き・うがい等は、飛沫が飛び感染の原因になる。絶対にやめる

●更衣室（チーム及び審判）

① 更衣室内でも社会的距離（できるだけ2m、最低1m）を確保する

・空いている部屋があれば追加の更衣室として利用する（先発と控えで分ける等）

・追加の更衣室が難しい場合、時間をずらすなどの工夫をする

② 更衣室の滞在時間を、できるだけ減らす（目安：各自30分～40分）

③ 更衣室内では、必ずマスクを着用する

④ タオル、飲水ボトル等は共用しない

⑤ シャワーは、一つずつ間隔をあけて使用することを原則とする。人数が多いときは時間をずらして使用することで、人と人との間隔（できるだけ2m、最低1m）を確保する

●競技用具、備品の消毒

① 試合開始前にボール、コーナースタック、ゴールポストを消毒する

② ボールは、ハーフタイムにも消毒する

●ボールパーソン、担架要員

- ① ボールパーソン、担架要員の人数をできるだけ少なくする
 - ・試合実施要項の[試合球]の定めに関わらず、上記の目的のために8個以上のボールを使用することは許容される

●試合開始前のウォームアップ

- ① ピッチ上でのウォームアップ
 - ・選手、コーチングスタッフは、マスクをしなくてよい
 - ・審判員はマスクをしなくてよい

●試合開始前の、審判団による選手チェック及び用具チェック

- ① 各チームの更衣室前で副審が実施。副審はマスクを着用

●選手及び審判団のピッチ入場～キックオフ

- ① ステップ②:入場前の混雑を防ぐため、両チーム及び審判団はそれぞれに入場する
ステップ③④:両チーム選手及び審判団は整列のうえ、一緒に入場する
- ② 入場前は社会的距離(できるだけ2m、最低1m)を保つよう十分配慮する
- ③ フェアプレー旗、クラブ旗、エスコートキッズは行わない
- ④ 握手セレモニー、ペナント交換、は行わない
チームの集合写真は認められる。ただし、社会的距離(できるだけ2m、最低1m)を保つこと
- ⑤ コイントスは主審及び両チームのキャプテンにより実施する。ただし、社会的距離(できるだけ2m、最低1m)を保つこととする
- ⑥ ピッチ上で円陣を組むことは、行わない

●審判団

- ① 主審と副審は、試合中マスクをしなくてよい。
- ② 第4審判は、試合中マスクをしなくてもよいが、交代を告げるときは、マスクを着用する。

●チームベンチ

- ① 1席空けて座る
- ② 入りきらない場合は、ベンチを増やして対応。または、主審及び両チームで事前に合意した場所で待機
- ③ ベンチの選手及びチームスタッフは、マスクを着用する。但し、テクニカルエリアで指示を送る際は、マスクを外してよい
- ④ 不要な会話・接触は控える

●試合中の飲水、遮熱対策

- ① 飲水ボトルの共用を避ける。たとえ口が直接触れなくても唾液が飛ぶ可能性があり、感染の危険性はある
- ② 氷水にスポンジを入れて体を冷やすことは、体を冷やすだけであれば容認される。スポンジで顔を拭くことは行わない
- ③ 選手が口をつけフタをしたボトル等をクーラーボックスに戻すことは、絶対に避ける

●ゴールセレブレーション

- ① 社会的な距離（できるだけ2 m、最低1 m）を保って実施する

●ハーフタイム

- ① 選手、チームスタッフ、審判員等の引き上げ動線が混雑しないよう、予め確認する
- ② グランドの補修は、通常と同様に実施される
- ③ ボールを消毒する

●試合終了時のセレモニー

- ① ステップ②:両チームと審判団がピッチ中央に集まることは行わない
ステップ③④:両チーム及び審判団はピッチ中央に集まる。但し、社会的距離（できるだけ2 m、最低1 m）を保つよう十分配慮する
- ② チームとして集まって観戦しているファン・サポーターに挨拶等を行う場合、社会的距離を確保すること。握手、ハイタッチ、抱擁は行わない
- ③ 選手、チームスタッフ、審判員は、各自で更衣室に戻る

●保護者・応援団・ファンへの事前のご案内

- ・無理な来場は、勇気をもって、見合わせてください
- ・体調がよくない場合（例：発熱、咳、喉の痛み、だるさ、味覚臭覚の異常などの症状がある場合）
- ・同居家族や身近な知人に感染が疑われる方がいる場合
- ・過去14日以内に政府から入国制限、入国後の観察期間を必要とされている国、地域等への渡航又は当該在住者との濃厚接触がある場合
- ・入場ゲートで体温を測定し、37.5度以上の場合に入場できませんので、予めご了承ください
- ・競技場ではマスクを着用してください。熱中症対策でマスクを外す場合は、社会的距離（できるだけ2 m、最低1 m）、咳エチケットに十分配慮ください
- ・競技場でのマスクの配布はございませんので、各自ご準備ください
- ・競技場では、社会的距離（できるだけ2 m、最低1 m）を、確保するようにしてください（入退場時、トイレの列など）
- ・手洗い、手指消毒をこまめに行うようにしてください
- ・競技場の外でも、社会的距離（できるだけ2 m、最低1 m）を確保することはもとより、大声での発声、歌唱や声援、密集等の感染リスクのある行動を回避してください

○高体連主催大会において

- ・令和2年度は、高校サッカー選手権大会準決勝戦・決勝戦において、高体連ガイドラインを遵守できるチームの部員と保護者の観戦を認める。
- ・高体連ガイドラインに基づき、「高体連主催大会における保護者観戦に関して」（様式4）を提出、観戦IDと引き換えに観戦の許可をする。（試合終了後、IDを返却する）
- ・各校の観戦者について問題が発生した場合には顧問が責任を持って対応する

●応援スタイルについて

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、部員と保護者の皆様のご理解とご協力が必要となります

1) 容認される行為は以下の通りです

- ・横断幕掲出 *密にならないよう十分配慮してください

2) 禁止される行為は以下の通りです

- ・応援を扇動する
- ・歌を歌うなど声を出しての応援、指笛
- ・手拍子
- ・タオルマフらマフラー、大旗含むフラッグなどを“振る”もしくは“回す”
- ・トラメガを含むメガホンの使用
- ・太鼓等の鳴り物
- ・ハイタッチ、肩組み
- ・ビッグフラッグ *ただし、お客様がいない席に掲出される場合は容認される
- ・事前に応援の様態を録音したものを、試合中に流すこと